



たまごの

第153号

令和6年10月1日発行

発行所/一般社団法人
長崎大学玉園同窓会
〒850-0029
長崎市八百屋町36番地
TEL 095-824-5494

発行人/安部 和隆
印刷/株式会社 岩永印刷所

会長バトンタッチしました！

令和6年6月23日開催の総会及び理事会におきまして、安部和隆新会長にバトンタッチいたしました。2年間ではありましたが、栄えある玉園同窓会の会長職を務めさせていただき、心より感謝申し上げます。教育現場の経験が短い私が何とか職務を全うできましたのも、池田浩副会長をはじめ、理事及び監事、顧問、参与、事務局員、そして全ての会員の皆様の温かい励ましがあったからです。本当にありがとうございました。

就任直後、一般社団法人である本同窓会では、会長の交代に法務局及び監督官庁である長崎県教育委員会への届け出が必要になることを知り、書類作成に奔走したことが思い出されます。法人としての立ち位置を実感した次第でした。会報「たまごの」発行に関しては、広報委員会での編集方針の検討から原稿依頼、印刷イメージ作成、印刷依頼、そして長崎大学広報関連部署との連携による発送作業など、多くの方々のご協力を得ながら会報をお届けするプロセスを体験させていただきました。また、教員採用セミナーやキャリア支援セミナーの開催に関しては、本会の先生方を中心にたいへん多くの方々のご支援をいただいていることや、学外の多様な組織との連携が必要であることが分かりました。皆様の、「教職を目指す学生のためなら」との育むお気持ちに、心にしみました。これからは、一理事として会の発展を支えていきます。今後とも、玉園同窓会をよろしく願っています。



前会長 藤木 卓

この度、母校長崎大学教育学部創立150周年の節目の年に同窓会会長を仰せつかりました安部和隆と申します。まずもって、ご退任となられる藤木卓前会長様、理事や監事の皆様、そして、江口洋事務局長様、長い間、大変お疲れ様でした。おかげさまで伝統ある玉園同窓会も、皆様の温かいご理解やご協力、また熱心なお仕事などによりまして、充実した活動が継続してなされておりますことに心から感謝申し上げます。

もとより、力不足の私にとりまして、会長という役は身に余る重責です。他に多くの適任の方がおられる中、会長職をという話があった際には、お断り申し上げたかったのですが、藤木教育学部長時代に縁あって附属小で勤務させていただきました。また、広報部員や教採セミナーのお手伝いをさせていただくなかで、藤木前会長のすばらしい人柄と着実な仕事ぶりを直に感じておりました。このようなことから、恐れ多くも私は、会長職を引き受けることにいたしました。私は、藤木前会長のような斬新なアイデアも力もありませんが、玉園同窓会が愛する長崎大学教育学部の学生、教職員、OB・OGの皆様にとりまして、今後も心の拠り所となりますことを心から願っています。私も、事務局員と力を合わせて何とか任期を終えられるよう努力いたします。本会の顧問や参与の皆様、理事や監事の方々をはじめ、すべての会員や母校卒業生の皆様方の今後一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。お礼と就任のあいさつに代えさせていただきます。



新会長 安部 和隆

目次 < 新人特集 >

P1	【会長バトンタッチしました】	藤木 卓, 安部 和隆
P2	【新任教員になって!】	木下 直人, 岩室 玲香
P2	【新任教頭になって!】	一瀬 利朗, 神門 英樹
P3	【新任校長になって!】	中山 美加, 原田 憲和
P3,4	【教育学部へ入学して!】	仁科 悠河, 宇津野 璃玖, 小山 晴華, 一丸 詩織
P4	【教員採用セミナーを受講して!】	北村 優佳, 森 美駒
P4	【役員紹介】	
P5	【母校だより】	藤本 登
P6,7	【令和6年度総会報告, 令和5年度収支計算書・令和6年度収支予算書】	
P8	【事務局だより】	

新人特集

～教員になって～

木下 直人 (R6年卒・壱岐高校)



高校教員になって概ね3か月が経ちました。幼いころから憧れていた教壇に立つことになり、期待に胸を膨らませていましたが、順風満帆な教員生活ではありませんでした。何もかもが初めてで分からないことだらけ。授業も生徒指導も部活動指導も上手いかず、教員としての力不足に落胆する日々。そんな辛い日々を乗り越えられたのは間違いなく、ペアの先生や同期の先生、同じ学年団の先生方のサポートがあってこそでした。ペアの先生には授業でうまくいかなかったことを共有し的確なアドバイスをいただいたり、同期の先生とはお互いの悩みを相談したりしていました。周囲の先生方に助けられ、

無事に最初の3か月を乗り越えることができました。

話は変わりますが、この記事を読んでいる方の中には、大学生も多々いるのではないのでしょうか。そんな方に、これまで先輩教員にいただいた言葉で、最も印象に残った言葉を紹介したいと思います。それは、「憧れの職業に就けたとしても、自分のやりたいことと社会が求めているものは違う。」という言葉でした。実際、現実とのギャップに悶える日々が続きますが、高校英語科教員として日々成長していけるように邁進していきたいと思います。

～教員になって～

岩室 玲香 (R6年卒・大村特別支援学校)



教員となって約5か月が経ちました。1学期は、新しい出会いと初めてのことばかりで、目まぐるしくも学びの多い充実した毎日だったと感じます。そう感じられたのは、周りの先生方や子どもたちのおかげです。教員として子どもと関わる中で、自分の至らなさを痛感することが多かったですが、日々周りの先生方に支えられ、子どもに愛情をもって真っ直ぐに向き合う先生方の姿を見て、私もこうなりたいと憧れを抱きながら過ごしています。

ぶ力や成長に驚かされることが多く、子どもの学ぶ意欲や成長していく力に答えられるような関わりや授業がしたいという気持ちが日々強くなっています。

仕事をしている中で、他の先生方と子どもの成長を喜び合う瞬間や、子どもとの関わりをじっくり考えた末に少しずつ関係ができてきたと感じる瞬間が何よりも喜びです。子どもとじっくり向き合い、学び続ける姿勢を大切にこれからも頑張っていきたいと思います。

～教頭になって～

一瀬 利朗 (H7年卒・西彼北小学校)



「よかか。教員は最初の10年が勝負ぞ。」教員採用試験に合格した私へ、今は亡き父が、ねぎらいの言葉とともに掛けた言葉です。私の心に深く刻まれています。

あれから30年。私は、西海市立西彼北小学校の教頭となりました。実は、本校に勤務するのは2回目で、20代後半から30代初めまで6年間お世話になっています。つまり、勝負の10年のうちの6年間を過ごした学校なのです。

10年目を迎えようとしていたある日、国語科の教科書を持って校長室を訪ね、こうお願いしました。「やまなしの授業を見せてください。」

別の先生には、人数分の子ども県展の画用紙を持って

行き、次のようをお願いしました。「絵の描かせ方を見せてください。」1時間ではなく1単元の指導です。それなのにお二人は、にこっと笑って「よし、やろうか」と快く引き受け、授業を見せ、指導をしてくださりました。新しい技を知り、自分の成長を実感する幸せな時でした。

本校の学校教育目標は「やりたいがあふれる学校」です。1学期は2学級で道徳の授業をさせていただきました。これからも、学校のウェルビーイングのために、教頭としてやりたいことに挑戦していきます。

～教頭になって～

神門 英樹 (H16年卒・青島小中学校)



松浦市御厨港から船で約20分、青い海と空に囲まれた伊万里湾の口部に浮かぶ島「青島」。令和6年4月に松浦市立青島小中学校教頭として赴任しました。本校は極小規模校で、中学校籍ではありますが小中併設校のため、小学校教頭を兼務しています。教育実習以来となる小学生との生活に顔が緩み、和ませられる毎日です。

4月に入り、気を引き締められたことの一つに呼ばれ方があります。これまで「神門先生」と呼ばれていた呼び名が「教頭先生」にかわり、責任の重さや先輩方から教わった「目配り、気配り、心配り」の大切さを身にしみ感じています。「新補だからわからない」という

言葉は、いつまでも通用しません。児童生徒の指導はもちろん、職員や地域等との連携、事務処理などの多岐な業務に「待った」はありません。自信を失う時もありました。そんな時、これまでの勤務で一緒に管理職の先生が児童生徒に語られていた言葉を思い出し、自分を奮い立たせます。「できなかったことではなく、できたことを数えよう」。失敗は次へのステップ。できた実績を自信にかえ、一歩前に踏み出して、教頭職の実務と経験を積み重ねていきます。

～校長になって～

中山 美加 (H3年卒・喜々津東小学校)



4月から諫早市立喜々津東小学校に校長として赴任いたしました。着任後初めて運動場に出たとき、離陸直後の飛行機が頭の真上を飛んでいきました。本校は長崎空港の離着陸機の飛行ルートの真下に位置するのです。その轟音に驚きながらも、真っ直ぐで力強い飛行の様子に「私もこれから出会う子供たちのために力強く進んでいこう」と決意を新たにしました。

本校は開校から42年。毎日の交通指導に、学校行事にと、保護者や地域の方々に多くの協力をいただくたびに「愛されている学校」であることを実感しています。職員も子供たちを愛情深く育て導いてくださいます。そん

な中、一番の喜びは、子供たちが遠くからでも「校長先生～」と声を掛けてくれたり、笑顔に向けてくれたりすることです。「子供にとって『校長先生』とは特別な存在なのだ。」と実感するとともに、校長となって一番に手に取った本の一節、「校長は、子どもを守り学校を守り職員を守る最後の砦」という言葉を思い出し、身の引き締まる思いです。これからは「最後の砦」であることを自覚し、安心・安全な学校づくりを目指して一層精進していきます。

～校長になって～

原田 憲和 (H元年卒・西浦上中学校)



「教育者の最大のつとめは、心への点火である。」子どもたちのやる気をどう引き出すかをテーマとしてこれまで日々の実践に取り組んできました。また、長崎大学を卒業してから現在に至るまで、人とのつながりの有り難さ、不思議さを感じながら過ごしてきました。

令和6年度は長崎市立西浦上中学校の校長として413名の子どもたちを預かっています。子どもたちをまんなかに置き、「感動」があり、子どもたちと教職員のお互いが「成長」できる学校づくりに取り組んでいます。

長崎大学の学生の皆さんへ伝えたいことは、いま同じ研究室にいるメンバーは、「生涯の友」であること、さ

らに、教育学部の先輩や後輩とは不思議な縁でつながっていることです。いま目の前にいる人を大切にして、本気で関わってほしいと思います。

子どもたちや教職員、保護者や地域を動かすのは、校長の強い「思い」と「情熱」であり、こんな学校にしたいという「志」だと思っています。これからは長崎大学教育学部の卒業生として、「本気の教育でなければ、子どもは変えられない。」という気概を持ち、人とのつながりに感謝しながら感動と成長が感じられる学校づくりに果敢に挑戦します。

学生の声

～教育学部に入学して～

仁科 悠河 (小学校)



私はこの春、地元の京都府から長崎大学教育学部小学校教育コースに入学しました。

私は小学校高学年の頃の担任の先生との出会いがきっかけで教師を目指し始め、今に至ります。

教育について考えることは沢山してきたけれど、ここに来て、毎日が夢の実現に繋がる知識と経験、出会いがあり、学ぶことばかりです。特に長大の教育学部には副勉がとれる制度、実習や玉園同窓会など教師になるため

のサポートが充実しています。

さらに離島や被爆の歴史、海外との交流といった特色ある長崎の地での学びはとても魅力的です。

ここに来て良かったと思っています。このような恵まれた環境に感謝し、私は子どもの力になれる教師になるために、これからも様々なことに挑戦し続け、成長していきたいと思っています。

～教育学部に入学して～

宇津野 璃玖 (中・社会)



私が長崎大学教育学部に入学して半年が過ぎ、家事や授業の課題、バイトにサークルと毎日忙しく過ごす日々を送っています。私は県外出身者ということもあり、大学生活は友達ゼロからのスタートでした。しかし、積極的に自分から話しかけ、今では学部の垣根を越えてお互いに励まし合う仲間がたくさんいます。

現在大学1年生の私には大きな目標があります。それ

は、ブラック、過酷と言われている学校の教育現場を変えることです。教師は授業以外の業務が多すぎます。私のゴールは子どもの成長のために行動できる教師になることではありません。私自身が教師となり、内部から教師の働き方を改革していきたいのです。

～教育学部に入学して～

小山 晴華 (中・国語)



私が長崎大学教育学部に入学して半年が過ぎようとしています。時に地元である平戸の町が恋しくなることもあります。初めての一人暮らしや大学生活は新しい発見ばかりで、「ここに来て良かった」と感じさせてくれる友人や先輩、先生方との出逢いに喜びを感じています。長崎大学教育学部では1年次から教職について学ぶ機会が多く、小学校・中学校・幼児・特別支援教育の様々

な校種に視野を広げ、幅広い知識を身につけることができます。教師を志す同じ思いを持った仲間と共に自分の夢に向かってまっすぐ頑張ることができる、この恵まれた環境に感謝しながら、たくさんのお出会いと経験を大切にして、これからも精進していきます。

～ 教育学部に入学して～

一丸 詩織 (小学校)

私は小学生の時に出会った担任の先生のように児童の不安を取り除き、背中を後押すことのできる教師になることを目標に本学に入学しました。本学部で教師の仕事や実態について学び自分と同じ夢を持つ仲間と話をすることで、今まではぼんやりと描いていた「教師になる」という夢が現実味を帯びてきたように感じます。

講義の中では教職のやりがいや楽しさだけでなく、抱

えている問題や大変さなどについても学びます。学んでいくうちに将来に対する不安を感じることもありますが、幼いころからの夢を実現するために努力したいです。また、教職に対して熱意を持った友人たちと意見交換することは私にとってとても良い学びになります。



～ 教採セミナーを受講して～

北村 優佳 (小学校)

面接練習では、初めは少し話をしながら面接になれていくような形でくださったため、面接でどんなことを話すかまだ固まっていなかった状態から少しずつ固めていくことができました。複数の先生に見ていただくことで様々な聞き方や質問の内容があり、考えていなかったことでもその場で考えて答える練習ができました。

面接では練習した事が聞かれるとは限らないため、面

接の軸を作っておくこと、自分の教師像やどんな子供を育てたいか、どんな学級をつくりたいか考えておくことでそれをもとに考えれば答えることが出来ると教えて頂き、自分の気持ちも再確認でき、どんな質問が来ても大丈夫という自信にもつながりました。



～ 教採セミナーを受講して～

森 美駒 (特別支援)

私は主に模擬授業と個人面接の対策をしていただきました。特に面接では部屋に入るときのノックの仕方から所作、話の組み立て方など基本的なことから丁寧に教えて頂き、実際にドアをノックして部屋に入るところから練習をすることができたので、常に本番と同じような心構えで臨むことができました。

面接の練習をするときには、面接調査票に書いていな

いことから質問がされるので、自分の度胸を試し、想定外の質問にも答える良い練習になりました。

答えられなかった質問については、終わった後に先生が考えるヒントを与えてくださったことで、自分の考えをより深め、まとめることができました。



役員紹介

令和6年6月23日の総会で、任期満了に伴う役員改選がありました。

(任期：令和6年6月23日～令和8年総会当日)

(敬称略)

役員改選に伴い、下記の理事が退任されました。大変お世話になりました。

- 顧問：藤本 登 (再任)
- 小田 恒治 (再任)
- 参与：山崎 滋夫 (再任)
- 法人理事：中川 幸久 (再任)
- 池田 浩 (再任) 副会長
- 上西 誠 (再任)
- 森 浩司 (再任)
- 青嶋 秋男 (再任) 常務理事
- 藤木 卓 (再任)
- 古野 祐一 (再任)
- 刈山 弘全 (再任)
- 倉田 伸 (再任)
- 安部 和隆 (新任) 代表理事
- 道越貴代美 (新任)
- 野中 光治 (新任)
- 木村 国広 (新任)
- 徳川 敬文 (新任)
- 本多ひとみ (新任)
- 監事：竹市 保男 (再任)
- 池田 敏彦 (新任)

- 法人理事：中嶋 将晴
- 野田 和宏
- 濱田 浩一
- 江口 洋
- 牛津 武總

- 事務局：安部 和隆 (会長)
- 青嶋 秋男 (事務局長)
- 徳川 敬文 (事務局員)

母校だより

教育学部長 藤本 登

先日、昭和3年生まれの方の長崎大学長崎師範学校を卒業されたと思われる方のご家族から、理由は定かではないが、何回生に当たるかの問い合わせがあった。皆さんもご存知とは思いますが、教育学部は明治7年(1974年)2月に設置された教員仮師範所(翌年、小学教則講習所と改称)から数えて、本年150周年となる。男女の別の師範学校が昭和18年に組織上統合されたが、原爆の日には西浦上にあった男子部師範学校は焼失壊滅し、女子部があった大村に移った。その後、戦後の教育基本法制定により、昭和24年5月30日に師範学校を母体とする学芸学部が本学に発足し、それと同時に県師範学校は、学芸学部の母体として大学に吸収され、昭和23年4月の入学生が卒業する昭和26年3月まで存続した。ということで、問い合わせの方は、長崎大学長崎師範学校卒業生となる。ところが、本学部の井手弘人准教授によれば、尋常小学校昭和15年卒、高等小学校昭和17年卒で、ストレートで入学していれば17年師範一部入学(昭和21年度卒)となり、これは中等教育機関としての県師範の最後の卒業生で、「師範60期」ではないかと思われるとのこと。一方で、旧制中学校卒業後入学された場合(かつての二部。のちの「本科」)昭和15年尋常小卒は変わらないが、ストレートであれば昭和20年3月旧制中学校卒、その後師範本科入学となり、専門学校令による官立移行以後の長崎師範学校(男子部)の入学で、このケースなら「官立師範3期」とのこと。このあたりは、130周年記念誌を見ても良く分からない。戦中・戦後のこととはいえ、教育についても歴史が物語る大切な内容であり、誰かが引き継がねばならないことの様に思えない。

今年度、サイエンスワールドをはじめ、未来の科学者養成等、青少年の科学への誘いと人材育成に顕著に貢献された理科教育専攻の星野由雅教授が退職される。その最後の事業と言える「復興子ども教室」は、平成25年から行われている本学の福島未来創造支援研究センターの支援事業であり、本年度も川内村立小中学園の6・7年生10名と附属小学校の5・6年A組12名の交流が8月9日に附属小学校で行われた(写真)。原爆から復興した長崎と、東日本大震災と東京電力(株)福島第一原子力発電所の事故



からの復興を目指す福島県川内村が互いに学び合うことで、未来の平和と社会を築くための資質・能力の育成を目指して、継続的に実施されている。昨年度に引き続き、附属学校での交流事業を活性化させるために、倉田伸准教授が開発したメタバースを用いたオンライン交流授業を事前に2度実施し、お互いに学び多い時間を過ごした。次年度以降も学部のプロジェクトとして実施していきたい。皆さんはこのような歴史を紡ぐ活動をどのように捉えるであろうか。

さて、歴史を紡ぐというか、本学部や附属学校を残していくためには、何が必要であろうか。先日、附属学校園の育友会や後援会の会長、校園長と懇談会を開催した。附属学校園に求められていることや将来ビジョンや財政状況など、ざっくばらんに話をしたが、持続的・発展的な運営に対する数々の意見を頂いた。夜の部も含め、有り難い限りであった。益明けには、学長と教育学部の将来について意見交換を行う。ご存知の様に、現在本学部の中学校教育コースは技能系4教科(音・美・技・家)の募集を停止している。しかしながら、長崎県の教員採用選抜試験で中・高等学校にこれらの教科の募集枠があっても、受験者を輩出できない状況が続いており、結果として、これらの教科をはじめ、多くの校種・教科で臨時採用教員でさえ確保できない状況に至っている。国立大学に求められるものには、私学ができない地域貢献や学問分野の存続がある。本学部が大学からも信頼される成果を出しつつ、新たな制度を活用した取組みを地域と連携して作り上げることで、持続的な学部運営を行うことが肝要である。この度、文部科学省の「地域教員希望枠を活用した教員養成大学・学部の機能強化事業」に採択された。既存の離島教育枠を活用しつつ、新たな履修プログラムを開発し、前述の長崎県の教育課題の解決を目指す。

今年度は、研究者教員7名 小松尚夫教授(代数学)、吉澤研介准教授(解析学)、荻布優子准教授(特別支援)、杉本佳弘助教(幾何学)、樫本由貴助教(現代文学)、張子康助教(東洋史)、湯立助教(心理学)と、実務家教員3名 小柳勝彦教授(保健体育、高校)、鶴田圭子教授(高校)、松田裕見子教授(小学校)と、県教育センターとの交流人事による見なし専任教員2名 原昌紀准教授(数学、高校)、松永知大准教授(小学校)が着任された。また教授昇進2名 加納暁子(器楽)、田口由香(日本史)があった。これらの先生方が個性を発揮し、教員や学生、附属学校や地域教育界とハーモニーを奏で、新たな学部や大学院、そして附属学校を創ってもらいたい。



令和6年度 総会報告

日時：令和6年6月23日(日) 13時30分～

場所：桜町小学校内地域・学校交流センター

全ての議案について、全会一致で承認された。

なお、会計報告及び予算案は、次頁に掲載。

第1号議案 令和5年度事業報告及び会計報告

- 1 会員の確認・報告について
 - (1) 教育学部入学生に入会案内状配布(180部)
入会者16名
 - (2) 現職退職者のいる学校等へ終身会員への入会案内メールを送信した。
- 2 総会・理事会の開催について
 - 総会：6月25日(日) 桜町小地域・学校交流センター
 - 理事会：6月10日(土) 桜町小地域・学校交流センター
 - 9月9日(土) 教育会館3F大会議室
 - 12月9日(土) 教育会館3F大会議室
 - 3月9日(土) 教育会館3F大会議室
- 3 会報の発行(151号, 152号)について
 - 151号：令和5年10月1日発行
・新人特集, 総会報告, 収支決算・予算, 母校日より, 事務局日より 他
 - 152号：令和6年3月1日発行
・実践報告, 現職教員の声, 県外からこんにちは, 私も頑張っています!, 母校日より, 事務局日より 他
※カラー横書き
- 4 教育学部との連携事業について
 - 原爆慰霊祭(台風接近のため室内で限定者のみの参加で実施)
 - 玉園賞(優秀学生表彰)授与
- 5 公益事業の充実について
 - 学校図書購入助成事業(小学校2校, 中学校2校)
 - 児童・青少年育成事業
・令和5年度長崎県子ども会ジュニア・リーダー研修会(一般財団法人長崎県子ども会育成連合会)
 - 修学・就業支援事業(対象:教育学部生)
・キャリア支援セミナー(1年次対象)開催
・教員採用試験対策セミナー開催
- 6 地区懇話会の実施について
 - コロナ禍での中断により, 体制づくり再構築のための検討中。令和5年度は中止。
- 7 正会員向けサービスの向上について
- 8 業務の改善と効率化について
- 9 資産運用について

第2号議案 令和6年度事業計画(案)及び予算(案)について

- 1 会員管理について
 - 新規会員登録
 - 会員情報の更新
 - 新入生への入会案内
 - 学校等代表者の委嘱に関する処理

- 2 総会・理事会の開催について
 - 総会：6月23日(日)
地域・学校交流センター：桜町小
 - 理事会：6月8日(土)
地域・学校交流センター：桜町小
12月予定
3月予定
- 3 会報の発行(153号, 154号)について
 - 153号：令和6年10月1日発行予定
 - 154号：令和7年3月1日発行予定
- 4 教育学部との連携事業について
 - 原爆慰霊祭
 - 退職教員花束贈呈
 - 玉園賞(優秀学生表彰)授与
- 5 公益事業について
 - 学校図書購入助成事業(5校程度募集)
 - 児童・青少年育成事業(募集)
 - 修学・就業支援事業(対象:教育学部生)
・教育関係セミナー事業
・音楽・美術教育支援事業
- 6 玉園同窓会地区懇話会について
 - 感染症対応等を鑑み対象や開催方法を検討
- 7 一般会員の見直しについて
 - 従来からの課題である, 長期間にわたり会費未納の一般会員(県内非教職員及び県外教員など)への対応として, 定款の規定に沿って会員資格の喪失(定款10条)の手続きを行う。
- 8 終身会員の資格に関する定款の改正
 - 現職教員の退職年齢の変更に伴い, 終身会員の資格に関する定款の改正を行う。

第3号議案 役員改選について

今回の役員改選は, 任期満了に伴う役員改選である。(詳細については別記)

第4号議案 一般会員の見直しについて

- 定款に則り, 以下に示す一般会員(県内非教職員及び, 県外教職員等)の長期にわたる会費未納者に対して, 会員資格の喪失の措置を行う。
 - ・一般会員(県内非教職員, 県外教職員等)
総数: 921名(2024年5月24日現在)
 - ・過去6年間を遡って一回以上会費を納入した者: 142名

第5号議案 定款の改正について

- 正会員の②を以下のように改める。

②長大教育学部卒業生で教職員を退職するときに, 総会の議決を経て別途定める終身会費を納入した者(旧)

②長大教育学部卒業生及び長大教育学研究科修士生の正会員で, 満60歳を迎える年度以降に, 総会の議決を経て別途定める終身会費を納入した者(新)

令和5年度 収支計算書・令和6年度 収支予算書

令和5年度 収支計算書

令和5年4月1日から令和6年3月31日

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
I. 収入の部				
1. 入会金収入	400,000	385,000	15,000	入会者77名
2. 会費収入	2,125,000	1,858,780	266,220	
3. 雑収入	5	9	-4	
4. 繰入金収入	2,250,000	2,850,000	-600,000	
当期収入合計 (A)	4,775,005	5,093,789	-318,784	
前期繰越収支差額	-360,385	-360,385	0	
収入合計 (B)	4,414,620	4,733,404	-318,784	
II. 支出の部				
1. 事業費	2,943,200	1,871,886	1,071,314	
2. 管理費	2,874,121	2,856,479	17,642	
3. 固定資産取得購入支出	0	71,394	-71,394	
4. 予備費	0	0	0	
5. 繰入金支出	50,000	0	50,000	退職積立金特別会計へ
当期支出合計 (C)	5,867,321	4,799,759	1,067,562	
当期収支差額 (A)-(C)	-1,092,316	294,030	-1,386,346	
次期繰越収支差額 (B)-(C)	-1,452,701	-66,355	-1,386,346	

令和6年度 収支予算書 (案)

令和6年4月1日から令和7年3月31日

(単位：円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
I. 収入の部				
1. 入会金収入	400,000	400,000	0	入会者80名
2. 会費収入	1,900,000	2,125,000	-225,000	
3. 雑収入	5	5	0	
4. 繰入金収入	2,750,000	2,250,000	500,000	
当期収入合計 (A)	5,050,005	4,775,005	275,000	
前期繰越収支差額	9,321	-360,385	369,706	
収入合計 (B)	5,059,326	4,414,620	644,706	
II. 支出の部				
1. 事業費	2,173,200	2,943,200	-770,000	
2. 管理費	2,786,126	2,874,121	-87,995	
3. 固定資産取得購入支出	0	0	0	
4. 繰入金支出	100,000	50,000	50,000	退職積立金特別会計
当期支出合計(C)	5,059,326	6,497,321	-630,000	
当期収支差額(A)-(C)	-9,321	-1,092,316	1,082,995	
次期繰越収支差額(B)-(C)	0	-1,452,701	1,452,701	

事務局だより

事業等の報告

< 玉園教師塾 >

◎教採セミナーについて

7月22日(月)教育学部41番教室にて、教員採用セミナーの後半開講式を行いました。これは、教育学部と玉園同窓会が連携して行っている事業で、大学4年生及び大学院生が対象です。玉園同窓会のOBが中心となり、第二次採用試験の対策を具体的・実践的に指導されました。

前半の6月17日～7月17日の9日間に引き続き、8月20日(火)までの土曜・日曜・祝日を除く21日間、面接や模擬授業、小論文等への対策が行われました。

◎キャリア支援セミナー(1年次対象)について

新1年次学生対象に標記セミナーを開催しました。

●日時及び会場：令和6年7月4日(木)

16時30分～18時30分

●会場：長崎大学教育学部31番教室

●参加対象：玉園同窓会学生会員(新1年生)

●講師(外部講師として依頼)：

的野 郁美氏(N-school子育て支援教室
mahana 代表)

赤城 理恵子氏(長崎大学キャリアセンター
専門職員)



< 教育学部原爆慰霊祭 >

令和6年度の教育学部原爆慰霊祭は、好天に恵まれ、教育学部原爆慰霊碑の前で厳粛に行われました。今年度も、関係者の皆様には大変お世話になりました。

●日時：令和6年8月9日(金)10時58分～

●場所：教育学部原爆慰霊碑前



お知らせ

会員の皆様の住所等の移動があった場合や、現職会員の追加等、修正がある場合は、事務局までご一報いただくとありがたいです。

なお、事務局へのお問い合わせは、基本的に火曜日、金曜日の10時～14時30分の間をお願いします。電子メールでの問い合わせにも対応していますので、ご利用ください。

玉園同窓会事務局は、会長・事務局長・事務局員の3名で運営しております。少人数ではありますが、会員の皆様のため誠意をもって努力して参りますので、よろしくお願ひいたします。

玉園同窓会ホームページ

<https://tamazono.net/>

玉園同窓会

YouTubeチャンネル



事務局へのご連絡

・電子メール：inf@tamazono.net(常時)

・電話・fax：095-824-5494(以下の時間帯)

曜日：火曜日、金曜日
時間：10時～14時30分

※不定期にお休みすることがあります。

題字：青嶋秋男